年頭のごあいさつ

新年号
2026.1

編集室

明けましておめでとうございます。
今年もどうぞよろしくお願いいたします。
また、平素より「水産宮崎」をご覧いただき、誠にありがとうございます。

昨年の4月に「水産宮崎」の新担当となり、多くの方々の協力を得てこの新年号にたどり着くことができました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

さて、昨年の社会情勢を顧みますと、2月の岩手県大船渡市の林野火災、7月のトカラ列島近海の群発地震、11月の佐賀関火災、12月の青森県東方沖の地震等、改めて防災への意識を再確認させられる一年となりました。

一方、我々漁業界における漁業経営を取り巻く環境に目を転じますと、過去最長の黒潮大蛇行が終息したものの、高水温化等の海洋環境の変化による歴史的な不漁に加え、全国ではホタテやカキの大量へい死が発生するなど、水産業への影響は深刻化しており、本県におきましても、養殖魚の生育が進まず、出荷サイズが小型化する傾向が見られています。

漁業経営コストにおいては、燃油価格・漁業資材、飼料の原材料費の高騰、高止まりが依然続いており、令和7年度の漁業経営セーフティーネットは、燃油、飼料ともに第１～2四半期発動となるなど、漁家経営を圧迫しております。

このような状況の中、ＪＦグループで働く職員として、漁業を守り、漁業を継承していくという観点から、多くの方々へ魚や漁業について関心を持ってもらえるよう情報を発信し続ける必要性を再認識しております。

漁業を取り巻く環境は、依然として漁業収益の減少や後継者不足等厳しい状況でありますが、この「水産宮崎」が、漁業者の皆様の事業、生活の改善に繋がるよう、関係者の皆様が情報共有していただくツールとしてご活用いただけるように、本年も引き続き紙面作りに精進して参ります。

結びになりますが、今年１年が皆様にとって、実り多き年になりますようご祈念し、私の挨拶とさせて頂きます。

Copyright © Miyazaki Prefectural Faderation of Co-Operatibe Associations. All rights reserved.